

公益財団法人 大阪科学振興協会

平成24年度 事業計画

当協会は平成24年度、公益財団法人として新たな歩みを開始する。

また24年度は、大阪市立科学館の指定管理者として指名を受けた4年間（平成22～25年度）の3年目となる。

23年度の科学館は、23年12月に実施したプラネタリウムで使用する全天周映像システムのリニューアルや世界化学年関連の企画展・イベントの実施等もご評価いただき、来館者数は好調である。

一方、大阪市では戦略会議による施策決定や改革プロジェクトチームによる行財政改革等、市政運営を従来以上のスピードで行っており、今後短期間でダイナミックな変革が打ち出される可能性がある。

このような状況の中、当協会は、平成23年6月に策定した経営計画（平成23～27年度）に基づき、日々の職員等の「基礎活動」の重要性を胸に強く刻み、資料の収集・保管、調査研究、展示場の公開、プラネタリウムの投影、教育・普及活動、アウトリーチ活動等を展開し、協会目的である科学並びに科学技術の普及振興を目指すこととする。

このため、組織の一部改正を行い、お客さまサービスと運営効率を一層向上させるとともに、お客さまにとって魅力的な科学館でのプログラムやイベントを企画し、科学館外でもお客さまと接触する機会を増やすことにより、科学館来館者の増加と、将来のわが国の科学を担う次世代層の育成の一翼を担うことを目指す。

また、公益法人化を契機に、当協会が長期的に進むべき方向性とそのための具体方策等について、類似施設の調査や有識者へのヒアリング等により、検討を開始する。

なお、当協会が平成24年度、重点的に取り組む項目は以下の通りである。

○ 各層向けプラネタリウム番組の充実

一般向け番組は、平成22年12月に開始したプラネタリウムの2番組化が好評であるため継続実施する。そのうち、オート投影部分のソフトについては、独自制作、海外作品の翻訳、外部からの配給など、様々な手法を用いて調達する。制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。

小中学生対象の学習投影は、平日1回投影を冬期（1、2月）には2回投影に拡大する。

幼児とその保護者向けには、昨年6、7月に試行した「キッズタイム」に多くのお客さまがお越しになられたことから、6月以降の土・日・祝日、夏休みに投影時期を拡大して複数のプログラムを用意して通年実施する。

○ 科学館内外でのサイエンスショーの充実

デモンストレーター研修講座修了者に実演機会を提供するため、平成22年度より科学館でエキストラ実験ショーを開始したが、修了者が増加、演示スキルも向上したことから、エキストラ実験ショー継続実施に加え、サイエンスショーへの出演機会も提供する。

また、次世代層に科学との接触機会を増やすため、大阪市内小学校に対する出張サイエンスショーを平成23年度に試行したが、好評であったため、実施内容の向上を図りながら、本格実施する。

○ 金環日食に関するプラネタリウム投影、イベント等の実施

平成24年5月21日（月）朝の金環日食は、大阪で282年ぶりとなる天体ショーであり、平成21年7月22日の皆既日食を鑑みても、大きな関心・話題を呼ぶことが予想される。

このことから、平成24年3～5月のプラネタリウム番組を「神秘の太陽 金環日食」のテーマで投影する他、ミニブックの制作・発行、日食に関するレクチャー・展示、ホームページ等により、金環日食の概要、観察方法等、正確な情報提供を行う。

また当日は、科学館において観望会を実施すると共に、記録映像を撮影する。

○ 映画「天地明察」公開に連動した企画展等の実施

科学館は江戸期の天文学について、学芸員の専門性を生かし展示を行なっている。「天地明察」は、江戸時代の天文学者を主人公にした映画であり、学芸員が科学・時代考証などに貢献した。この映画が本年秋季に公開予定であることから、これにあわせて、考証に用いた当館やほかの館等の資料、映画会社が撮影用に再現した江戸期の天文観測機器等を借用し展示する。

※参考資料

①平成24年度 来館者目標 703,199人

(内訳)

- ・展示場 362,926人
- ・プラネタリウム 340,273人

②平成24年度 一般向けプラネタリウム及びサイエンスショーテーマ一覧

| 期 間 | プラネタリウムA | プラネタリウムB | サイエンスショー |
|---------------------|------------------------------|---------------|------------------------------|
| 24. 3. 1～24. 5. 27 | 神秘の太陽 金環日食 | さがせ！第2の地球 | 虹のひみつ |
| 24. 6. 1～24. 9. 2 | ものしり星はかせ2012 | ブラックホール | スーパー磁石 ～アルミが動く？～ |
| 24. 9. 4～24. 12. 2 | 宇宙に浮かぶ望遠鏡－ 美しすぎる！星のすがた | ブラックホール | 光のヒ・ミ・ツ |
| 24. 12. 7～25. 2. 25 | 木星－太陽系の最大の惑星－ | (仮) はるかなる宇宙絵巻 | サウンド オブ サイエンス♪ ～音のぶるぶる実験～ |
| 25. 3. 1～25. 6. 2 | 未来の星座をしてみよう－ 北斗七星がなくなる！？－ | (仮) はるかなる宇宙絵巻 | くうきフシギ発見！ |

1. 大阪市立科学館の管理運營業務受託事業(収入:233,944千円、支出:233,944千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管ならびに調査研究を行う。
第4次展示改装事業のための調査を行う。

(2) 展示場の公開・管理

- 1) 展示場の公開を行う。
(4階：宇宙とその発見、3階：身近に化学、2階：おやこで科学、1階：電気とエネルギー)
- 2) 展示場が正常に機能するように、その保守管理を行う。
特に、参加型展示固有の故障対応については、引き続き迅速な展示品の修繕に努める。
- 3) 展示品の評価、ならびに資料収集等による展示品の改良を随時行う。
- 4) 学芸員など専門スタッフによるサイエンスショーを実施する。
- 5) ボランティアによる展示案内やエキストラ実験ショーを実施する。
- 6) 企画展、特集展示等を随時実施する。
金環日食に関連した特集展示、および映画「天地明察」に関連した企画展を実施する。

(3) 教育・普及事業

- 1) 未来の科学を担う人材の育成に資する「青少年のための科学の祭典」、「こどものためのジオカーニバル」を日本物理教育学会など他団体と連携して実施する。
- 2) 学校教育への支援のため、教職員向けの各種研修を行う。
- 3) 科学とは違う分野に興味のある方への普及のため、文化連携事業を開催する。
- 4) 大阪市博物館協会と連携して各種活動を行う。
大学生などの科学館利用を促進するため「キャンパスメンバーズ制度」を継続する。
SONニュースへの記事提供や、共同研究、博物館連続講座やシンポジウムへ参画する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

- 1) 出版事業のほか、ホームページ、電子メールマガジンを活用する。
- 2) 科学館の案内看板を整備し、事業案内チラシの発行を行う。
- 3) 昨年度に試行した学校団体にむけた説明会を本格実施するなど、利用促進活動を積極的に行う。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。

2. 自主事業(収入:148,356千円、 支出:144,111千円)

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業(収入:137,431千円、 支出:92,300千円)

- 1) 一般投影は、観覧者層の興味や時宜に応じて実施する。
- 2) 昨年試行した幼児とその保護者を対象にした「キッズタイム」を本格実施する。
- 3) 学習投影の利用機会を増やすため、1～2月に従来1日1回の投影を2回とする。
- 4) 番組で使用する映像ソフトは、独自製作、海外作品の翻訳、外部からの配給など、様々な手法を用いて調達する。制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。
- 5) 特別投影を引き続き実施して様々な興味関心の要請に応える、また実験的な投影を行う。
- 6) これら多彩なプログラムの広報については、地下鉄掲出ポスターやスマートフォン対応を含めたホームページなども活用しながら推進し、市民の利活用を促進する。

(2) 全天周映像普及事業(収入:800千円、 支出:0千円)

オリジナル制作の「HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-」など、当協会で翻訳あるいは制作した映像ソフトを配給する。

(3) 普及啓発事業(収入:10,125千円、 支出:47,017千円)

1) 独自事業

- ①当協会発行の科学雑誌「月刊うちゅう」を編集、発行する。
- ②ボランティアによる展示場案内「サイエンスガイド」を引き続き実施する。
- ③夏休み科学教室や天体観望会などのイベント型教育普及事業を引き続き実施する。
- ④アウトリーチ事業として、モバイルプラネタリウム・出張サイエンスショー・ワークショップなどを引き続き実施する。
- ⑤「あべの科学博」等の大型科学イベントのプロデュースや、科学普及事業のコンサルティングなどを引き続き実施する。
- ⑥アウトリーチ事業のスタッフや、エキストラ実験ショーのボランティアスタッフを養成するための研修講座を実施する。
- ⑦来館者アンケートを実施する。
- ⑧学校との連携をさぐり、利活用を促進するために学校への訪問を行う。

2) 連携事業

他館、機関、企業、団体等との連携活動を積極的に推進する。

科学館友の会や市民が参画する各種の科学学習のサークル活動を支援する。

日本IBM社との科学教室、大阪管区気象台との気象イベント、芝浦工大とのロボット教室などのイベントを開催する。

「光のルネサンス」など大阪市の事業と連携してプラネタリウムの投影などを行う。

(4) 中之島科学研究所事業(収入:0千円、 支出:4,794千円)

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。

展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。

理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、わが国の展示活動の向上に貢献する。

その他の研究会等を積極的に開催し、研究所活動の維持・発展に努める。

3. 付随事業(収入:99,407千円、 支出:87,356千円)

<事業内容>

(1) 駐車場(収入:68,400千円、 支出:62,837千円)

来館者のための駐車場（科学館西側バス駐車場、科学館北側一般駐車場）を経営する。

(2) 売店(収入:31,007千円、 支出:24,519千円)

科学館内売店を運営するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する。